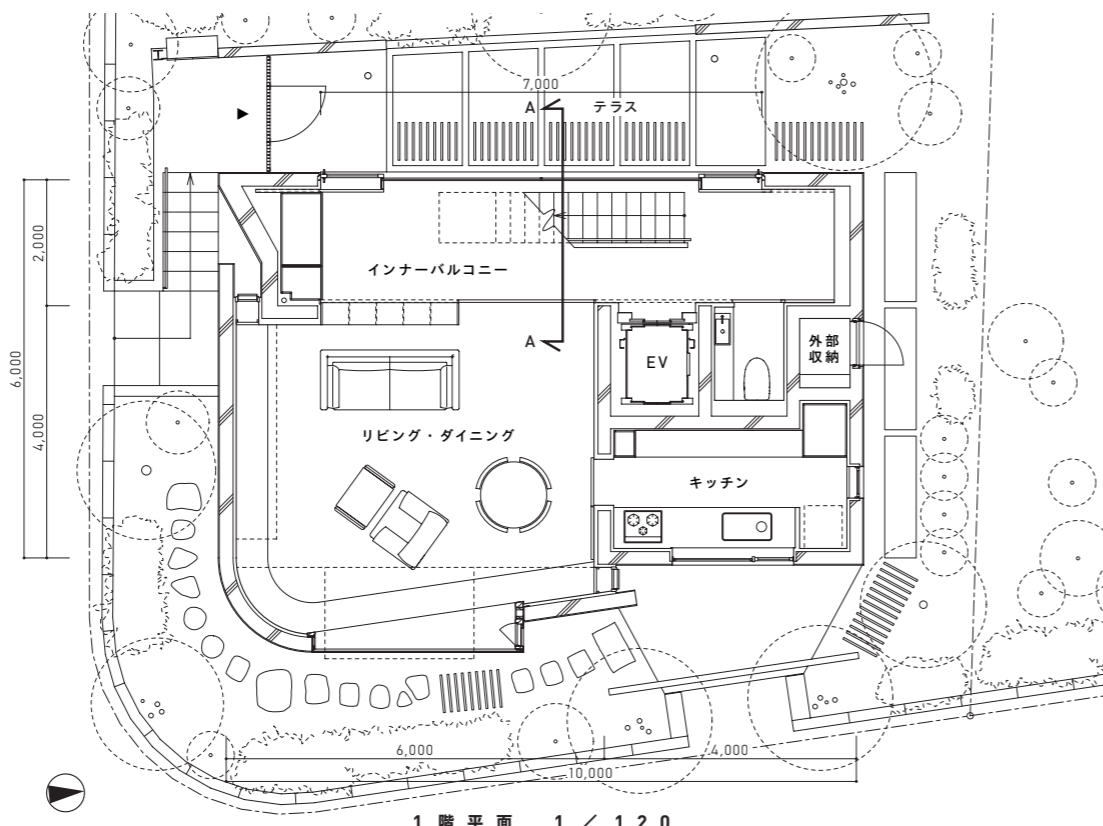


内外の 空間をつなぐ 装置としての階段

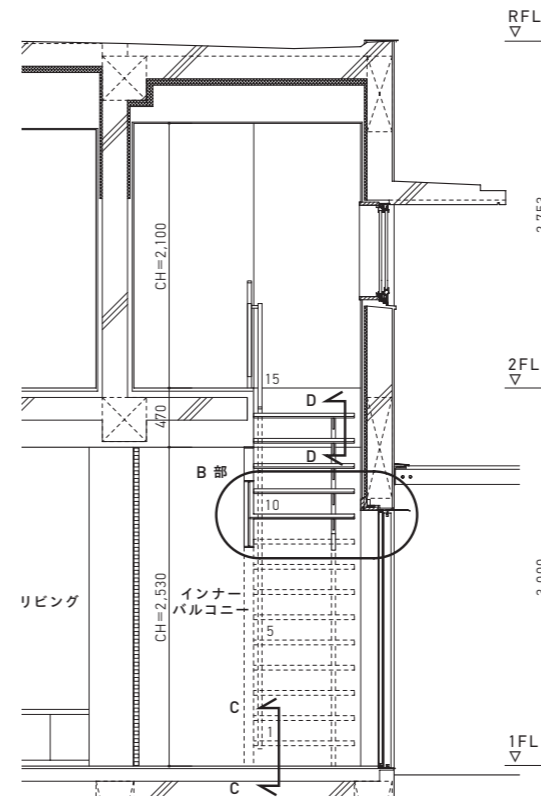
緑と風と光の家
矢板建築設計研究所

House for Green, Breeze and Light
by Yaita and associates

構造設計：構造計画プラス・ワン
施工：大同工業
構造：RC造
規模：地下1階，地上2階
階段製作：岡村金物店
竣工：2014年4月
所在：東京都大田区
撮影：小川重雄

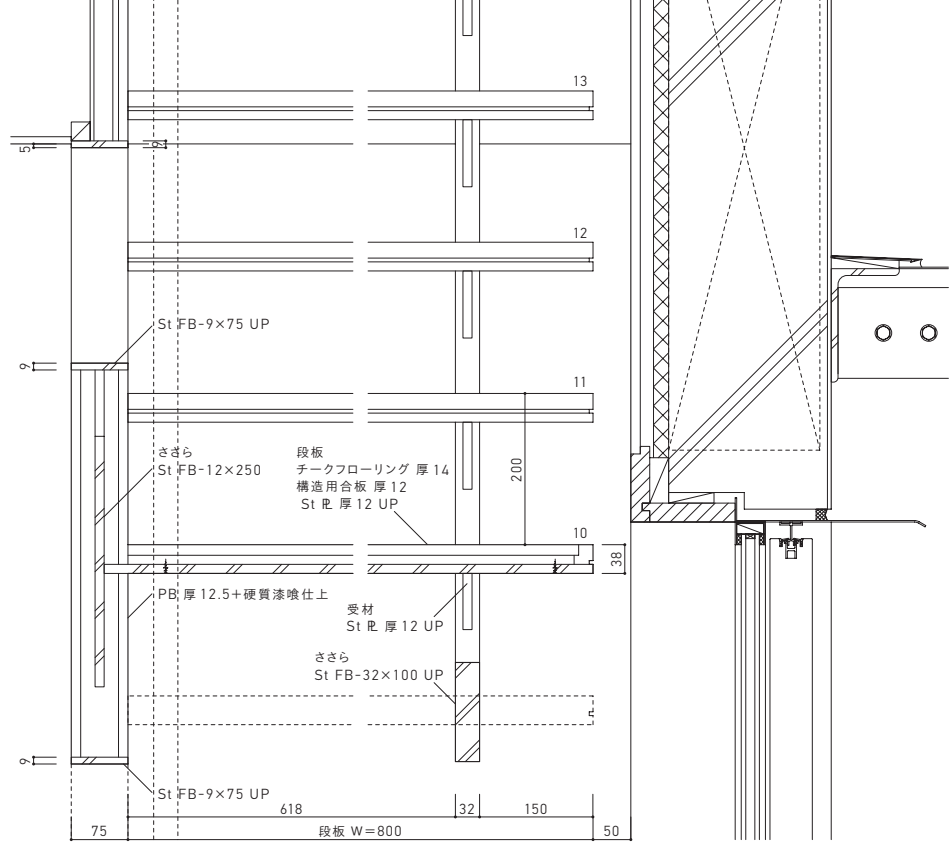


1階平面 1 / 120

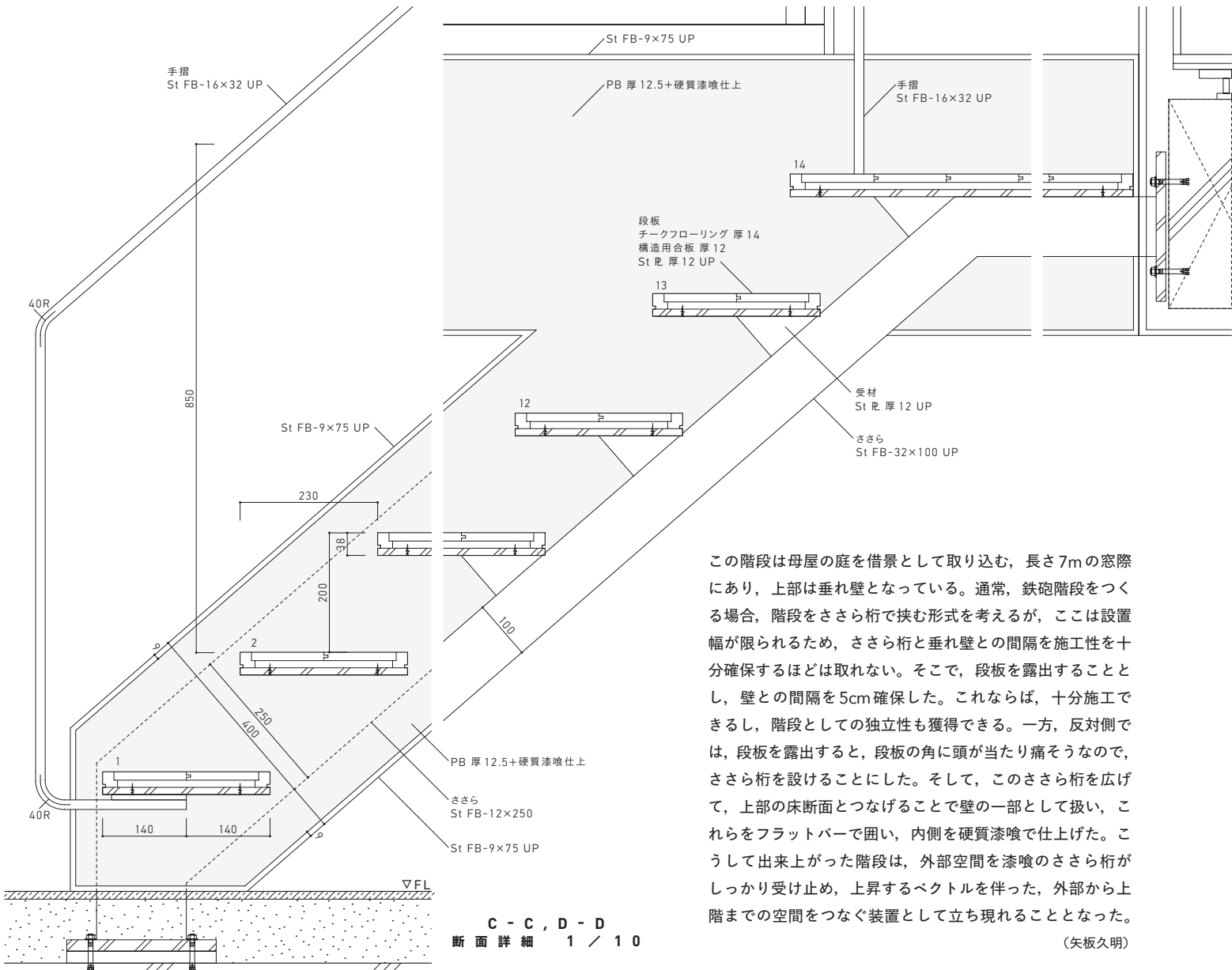


A-A断面 1 / 60





B 部 断面詳細 1 / 10



C - C, D - D
断面詳細 1 / 10

この階段は母屋の庭を借景として取り込む、長さ7mの窓際にあり、上部は垂れ壁となっている。通常、鉄砲階段をつくる場合、階段をささら桁で挟む形式を考えるが、ここは設置幅が限られるため、ささら桁と垂れ壁との間隔を施工性を十分確保するほどは取れない。そこで、段板を露出することとし、壁との間隔を5cm確保した。これならば、十分施工できるし、階段としての独立性も獲得できる。一方、反対側では、段板を露出すると、段板の角に頭が当たり痛そうなので、ささら桁を設けることにした。そして、このささら桁を広げて、上部の床断面とつなげることで壁の一部として扱い、これらをフラットバーで囲い、内側を硬質漆喰で仕上げた。こうして出来上がった階段は、外部空間を漆喰のささら桁がしっかり受け止め、上昇するベクトルを伴った、外部から上階までの空間をつなぐ装置として立ち現れることとなった。

(矢板久明)